

Cyber³ Conference Okinawa 2015—Crafting Security in a Less Secure World—
Cyber³ = 「サイバーコネクション」、「サイバーセキュリティ」、「サイバークライム」

主要登壇者決定！

2015年11月7日(土)、8日(日) 沖縄万国津梁館で開催

<http://cyber3conf-okinawa2015.jp>

内閣府が世界経済フォーラム(World Economic Forum)の協力のもと、2015年11月7日(土)～8日(日)の2日間沖縄にて開催する、サイバーセキュリティに関する国際会議『Cyber³ Conference Okinawa 2015—Crafting Security in a Less Secure World—』の登壇者が決定しました。本会議の開催期間では、サイバーコネクション、サイバーセキュリティ、サイバークライムの『Cyber³』の現状について、また、それらの将来の世界経済における影響を多分野にわたる各国の重要な政府関係者、世界的大企業の経営者、研究者等が協議致します。

本会議は、『Cyber³』を表す「サイバーコネクション」、「サイバーセキュリティ」、「サイバークライム」の3つの主要プログラム(トラック)から構成され、各トラックにはトラック議長と、議長を補佐するトラックリーダー(政策リーダー、テクノロジーリーダー、アカデミックリーダー各1名)、トラック書記官を配置します。セッションの進行は各リーダーが務めます。また会議終了時に各トラックから発表する報告書の作成指揮を行い、議長と書記をサポートしていただきます。

<登壇者(一部・予定)> ※以下アルファベット順(敬称略)

(政府・公的機関関係者)

- 笹川平和財団米国会長、元米国家情報長官 デニス・ブレア (Dennis Blair)*
- チャートフグループ、元米国土安全保障省長官 マイケル・チャートフ (Michael Chertoff)
- パラディンキャピタルグループ・ベンチャーパートナー、米海軍兵学校サイバーセキュリティー学名誉客員教授、元米国家安全保障局副長官 ジョン・C・イングリス (John C. Inglis)
- 欧州委員会チーフ IT アドバイザー フランシスコ・モラン (Francisco Moran)
- 国際刑事警察機構(インターポール) IGCI 総局長 中谷 昇 (Noboru Nakatani)*
- リッジシュミットサイバー社共同設立者、ブッシュ元米大統領・オバマ元米大統領時元サイバーセキュリティー特別補佐官 ハワード・シュミット (Howard Schmidt)

(経営者)

- 米・プライスウォーターハウスクーパース社社長 デイビット・バーグ (David Burg)
- 独・COPITS最高経営責任者、Danish Centre of IT 共同設立者 ジョン・フォーリー (John Foley)
- カスペルスキー研究所取締役会長兼最高経営責任者 ユージン・カスペルスキー (Eugene Kaspersky)
- ポーランド・サイバーセキュリティー社会長 ミロスラフ・マイ (Miroslaw Maj)
- グローバルガバメントアフェアーズ&サイバーセキュリティーポリシーシマンテック社副社長

シェリ・マグワイア (Cheri McGuire)

- マイクロソフト社サイバーセキュリティー政策/戦略担当責任者 アンジェラ・マッケイ (Angela McKay)
- ブリティッシュ・テレコムジャパン株式会社チーフテクノロジーオフィサー フィリップ・モリス (Philip Morris)
- 株式会社産業革新機構代表取締役会長、日産自動車副会長 志賀 俊之 (Toshiyuki Shiga)*
- 環太平洋大学協会事務局長 クリス・トレメヴァン (Chris Tremewan)

(研究者等)

- 慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科特別招聘教授 ジム・フォスター (Jim Foster)
- 慶応義塾大学環境情報学部長・教授 村井 純 (Jun Murai)
- 高麗大学サイバー法律センター パク・ノヒョン (Nohyoung Park)
- タフツ大学フレッチャースクール学部長、元 NATO 軍最高司令官 ジェームス・スタブリディス (James Stavridis)
- ミドルベリー国際大学院モンレー校サイバーセキュリティーイニシアチブ上級リサーチフェロー・博士 リントン・ウェルズ 二世 (Linton Wells II)

*トラック議長

(最新の登壇者リストは公式ウェブサイトをご覧ください: <http://cyber3conf-okinawa2015.jp>)

<セッション>

■サイバーコネクション・トラック

セッション 1: 今後のIoT～新たなグローバルビジョン

セッション 2: 自動運転車

セッション 3: 生活の中のロボット

■サイバーセキュリティ・トラック

セッション 1: サイバーと国家安全保障

セッション 2: 平昌オリンピック 2018、東京オリンピック 2020 に向けた取り組み

セッション 3: セキュリティ侵入に対する新しい法令と規制パラダイムの開発

■サイバークライム・トラック

セッション 1: 公的機関の取り組み

セッション 2: 民間企業の取り組み

セッション 3: 共同の脅威インテリジェンスセンター

『Cyber3』とは？

自動車や家畜から家電製品に至るまで、Internet of Things (IoT)は私たちの周りで日々拡大しています。この広大で目に見えない相互接続された端末網のサイズや分布、機能性は、拡大を続けており、専門家を含め誰も把握しきれない速さで我々の世界を劇的に変えることでしょう。この新しいレベルの**サイバーコネクション**は、私たちの社会に前例のない恩恵をもたらす可能性を秘めています。しかし、他のどのテクノロジーとも同様に、悪用される可能性も含まれるため、この新しい仮想空間の真の価値は、セキュリティという必要不可欠な要素によって決定されます。この文脈において、**サイバーセキュリティ**は、グローバル経済全体の安定性と信頼性を確保するための重要な役割を担っています。

IoTの登場により、私たちは今、仮想空間との関わり方を再考する必要に迫られています。もし、今後サイバーセキュリティに対してより協力的で全体的なアプローチをとることができなければ、**サイバークライム**を増加させることにつながるでしょう。事実、サイバークライムはすでに急増しています。すでに国境を越えた脅迫や大規模な窃盗は存在し、インターネットにつながった端末が人の命を奪う事件を起こすのも時間の問題です。そしてサイバークライムは、大人数の集団や主要インフラ(発電所、通信システム、金融ネットワークなど)を標的としたサイバーテロへとエスカレートする可能性があります。これは、インターネットを通じて日々様々なコネクションが強化されている現代において、脅威とも言える側面です。デジタル兵器の開発には資金力のある優秀な人材が必要ですが、それを使用するためには知性も資本も必要ありません。誰かが何億円も投じて開発したサイバー兵器が、コピー＆ペーストのみで若者の遊び道具になってしまう可能性もあるのです。



Cyber3 Conference Okinawa 2015—Crafting Security in a Less Secure World—』に関する最新情報をお伝えするWEBサイト(<http://cyber3conf-okinawa2015.jp>)は随時更新中。

サイバーセキュリティに関する国際会議

世界中から、サイバーセキュリティの権威とともに、重要な政府関係者、世界的大企業の経営者、そして著名な研究者が集まる本会議にふさわしい開催地として、2000年のG8サミットの開催会場でもあった沖縄万国津梁館が選ばれました。完全招待制の、多様なステークホルダーによるこのコラボレーションには、およそ300名程度の著名な有識者が参加する予定です。

沖縄は、日本最大のリゾート地であるとともに、年間を通じて気候にも恵まれています。日本政府は、特に情報通信技術の分野において、国家戦略として沖縄振興に取り組んでいます。万国津梁館は、本会議において、世界中のビジネスや政府が直面する最重要課題に取り組む参加者の方々に、沖縄の島々の自然美やリラックスした雰囲気といった魅力を肌で感じていただきたいと思います。

＜本件に関するお問い合わせ先＞

■ 会議内容、運営、参加登録等に関して

Cyber3 Administration Office 事務局 担当:半藤、北岡 E-mail: info@cyber3conf-okinawa2015.jp

■ 報道機関における取材登録等に関して

Cyber3 Conference 広報事務局 担当:岩渕 E-mail: C3okinawaPR@group.dentsu-pr.co.jp